

放送ストリーミング情報収載

放送ストリーミング情報【2023No.303】(HP 収載)

分類：ネットストリーミング

局等：Digital Concert Hall

作曲家：ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト他

曲名：弦楽四重奏曲変ロ長調 K. 458《狩》他

演奏：ベルリンフィル団員

関連サイト：<https://www.digitalconcerthall.com/ja/concert/54450>

2023年4月24日ベルリンフィル小ホールにおける演奏です。



ベルリンフィルの室内楽：アイデンティティの追求

アイデンティティの探求をテーマにした、ベルリンフィルのメンバーによる弦楽四重奏のコンサート。モーツァルトが自然を感じさせる弦楽四重奏曲《狩》で模範としていたハイドンを敬意を表している一方、バルトークは民俗音楽に着想を得て弦楽四重奏曲第2番を作曲しました。スメタナは弦楽四重奏曲第1番で、若き日の幸福な恋から難聴の辛さまで、自身の生涯を生き生きと描き出しました。

この他下記が演奏されました。

ベラ・バルトーク 弦楽四重奏曲第2番 Sz 67

シモン・ロトゥリエル(ヴァイオリン)

伊藤真麗音 (マレーネ) (ヴァイオリン)

清水直子(ヴィオラ)

ブリュノ・ドルプレール(チェロ)

ベドルジハ・スメタナ 弦楽四重奏曲第1番ホ短調《わが生涯より》

シモン・ロトゥリエル(ヴァイオリン)

伊藤真麗音 (マレーネ) (ヴァイオリン)

清水直子(ヴィオラ)

ブリュノ・ドルプレール(チェロ)

モーツァルトの弦楽四重奏曲変ロ長調《狩》は、アナログ時代から慣れ親しんだ曲です。現代の演奏はどうかという興味を持って聴きましたが、切れ味のよい現代風の演奏です。常設の弦楽四重奏団ではありませんが、同じオーケストラの団員同士ということで息もあっています。



バルトークの弦楽四重奏曲第2番は、民族曲の表情もありながら、現代曲らしいアグレッシブさが聴きどころです。

スメタナの弦楽四重奏曲第1番ホ短調は、上記の解説にあるようにスメタナ自身の人生を描いたような曲で、いきなり慟哭するようなヴィオラの激しいパッセージから始まり、喜怒哀楽を表現するような曲です。熱の籠った演奏で、聴衆の盛んな歓声とスタンディングオベーションを受けていました。



以上、LAN iSilencer の追加もあって、4人の奏者の楽器の音色がよく分かります。

以上

